一日一字をどのように与えるか

俗に“三日坊主”という言葉があります。熱しやすく冷めやすいのは日本人の通性らしく、大層熱心のようにだと思える人でも、しばらくすると全く打って変わったように冷淡になっていて、よくがっかりさせられます。

“石の上にも三年”……何事も最低これだけの努力が欲しいと前に申しましたのも、私は今までたびたびがっかりさせられて来たからです。それで、今では、どんなに有効な方法でも、実行に困難なものは紹介しないことにしています。少々効果は劣っていても、実行しやすく、長続きの出来ることが良い方法だと思うのです。

さて、その具体的な方法について述べましょう。毎食事の前後に、漢字カードを子供に見せて、これを読んでやるのです。見せる時間は、毎回約十秒間で十分です。五秒間では少な過ぎますが、十五秒間では多過ぎます。過ぎたるは及ばざるが如し、少な過ぎてもいけません。五秒以上十五秒以内なら結構です。

初めは、子供の喜びそうな内容を持った漢字がよろしい。たとえば猫の好きな子には“猫”を、「これは坊やの好きな猫という字よ。ねこ、ね

こ」

と言って教えてやります。普通の速さで、少し大きめの声で、口を大きく開いて、はっきりした発音で、二、三回繰り返して読んで聞かせます。

一日三回、食事の前後にやりますと、毎回漢字を見せて読んでやるのが十秒間として前後で二十秒それが朝、昼、夕食事で六十秒の学習で済みます。これが第一日目の学習です。これなら、だれでも「忙しくて出来ない」ということはないと思います。

いつでも、必ず幼児に漢字カードをよく見させて、その上で読んでやって下さい。幼児に関心を向けさせる配慮が必要です。幸い、幼児は好奇心が旺盛ですから、幼児の好きな物を表わした漢字なら、必ず関心を持ってこれを見、覚えます。

六回に至らないうちに覚えてこれを読んでも、必ず六回繰り返して読んでやらなければなりません。